

(3) 全市の産業構造

①生産額からみた産業構造

RESAS を活用し、本市の生産額（総額）から産業の構成割合をみると、3次産業が67.9%と全国よりも高い割合となっている。

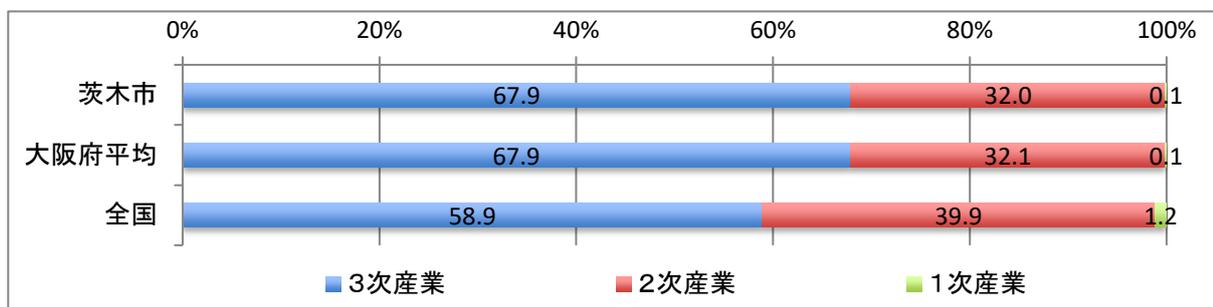


図 12-15 地域内産業の構成割合（生産額（総額））2018

また、本市における3次産業の内訳を見ると、「住宅賃貸業」、「運輸・郵便業」、「教育」が全国、大阪府より高くなっている。

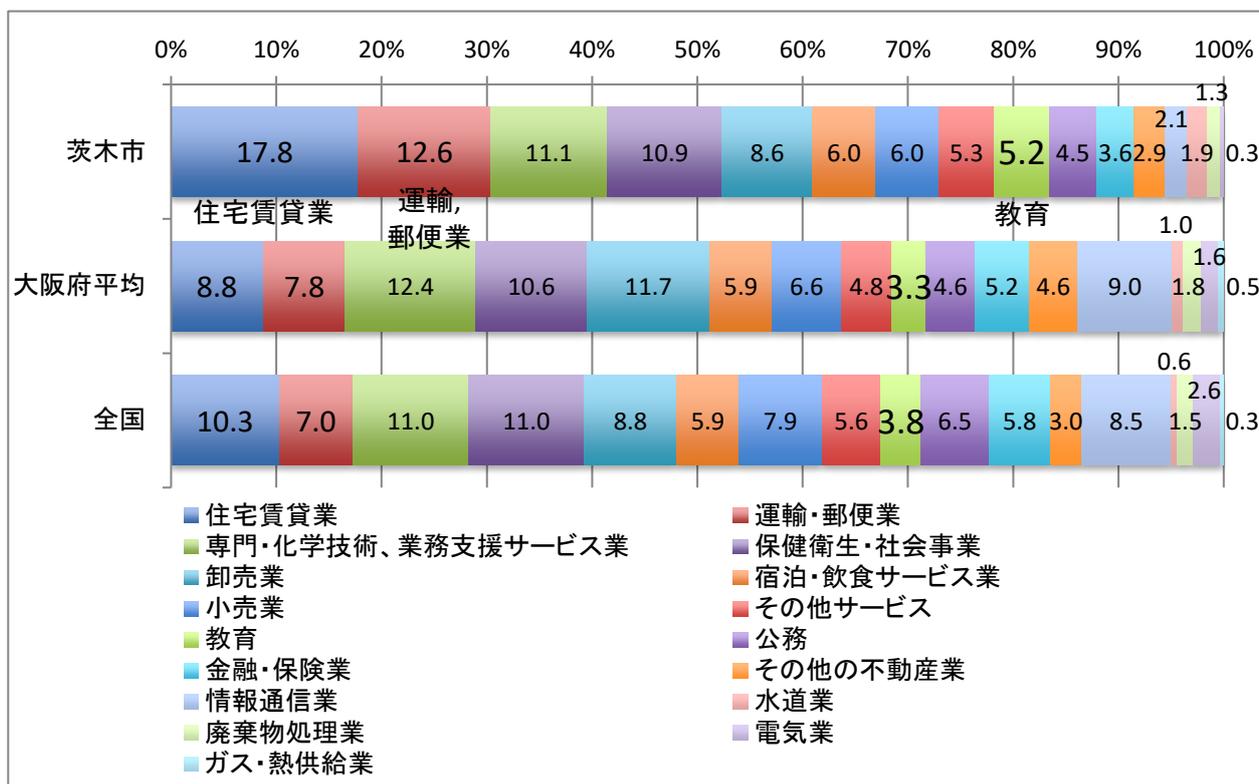


図 12-16 地域内産業の構成割合 3次産業（生産額（総額））2018

②事業所数・売上高・付加価値額からみた産業構造

RESAS を活用し、事業所数から本市の産業構造をみると、「運輸業、郵便業」、「不動産業、物品賃貸業」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」が大阪府、全国よりも高い構成比となっている。

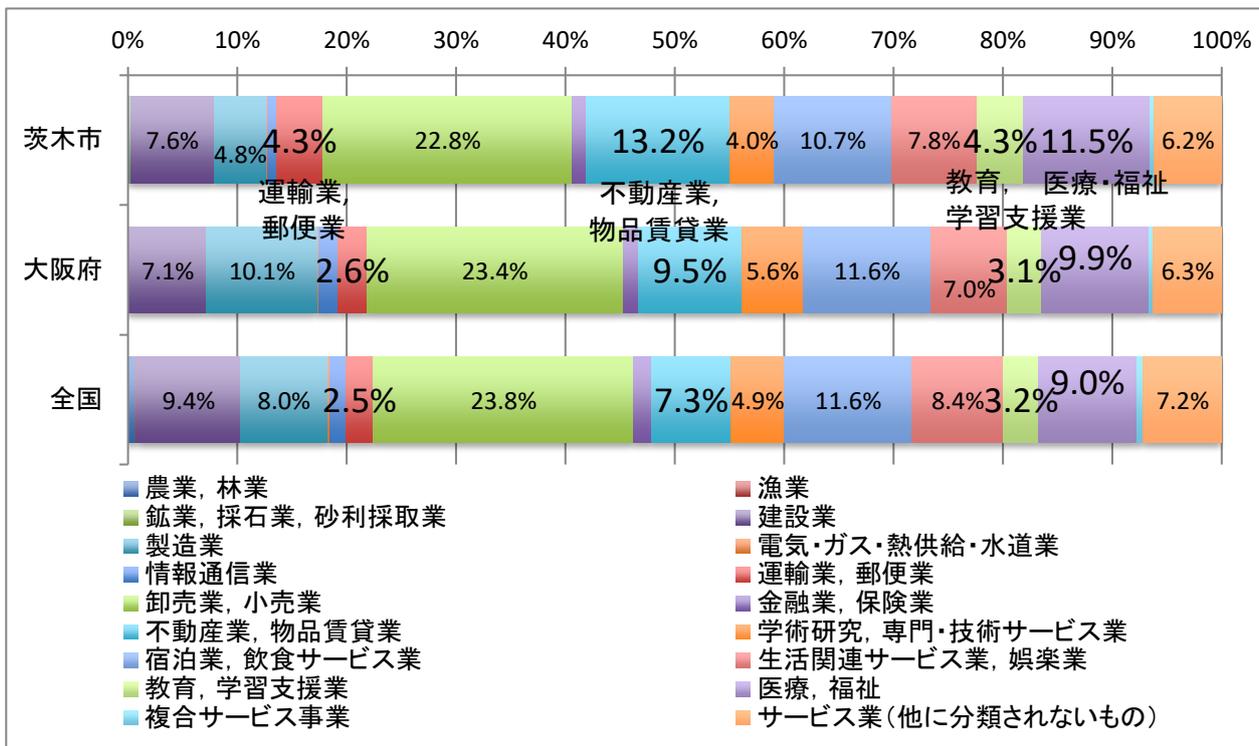


図 12-17 事業所数（事業所単位）2021

また、売上高から本市の産業構造をみると、「製造業」、「卸売業、小売業」が全体に占める割合が高く、大阪府、全国よりも高い構成比となっている。

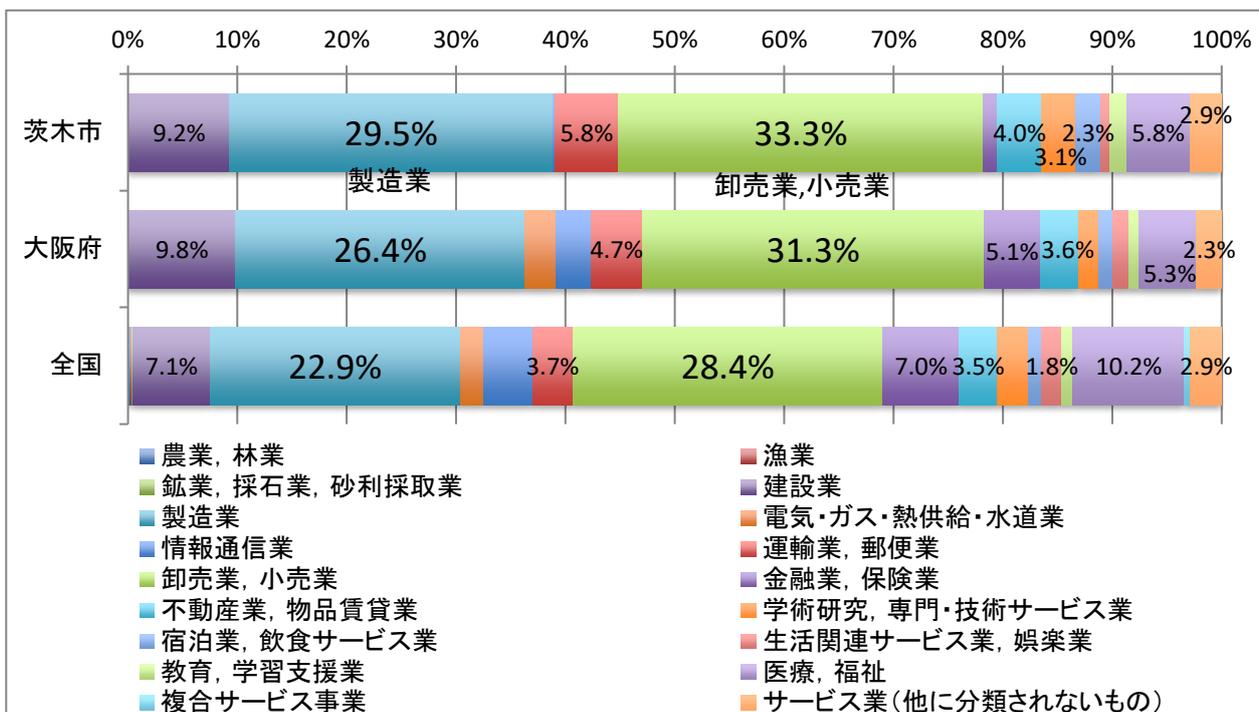


図 12-18 売上高（企業単位）2021

付加価値額から本市の産業構造をみると、「製造業」が全体に占める割合も高く、大阪府、全国よりも高い構成比となっている。また、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」、「不動産業、物品賃貸業」で大阪府、全国よりも高い構成比となっている。

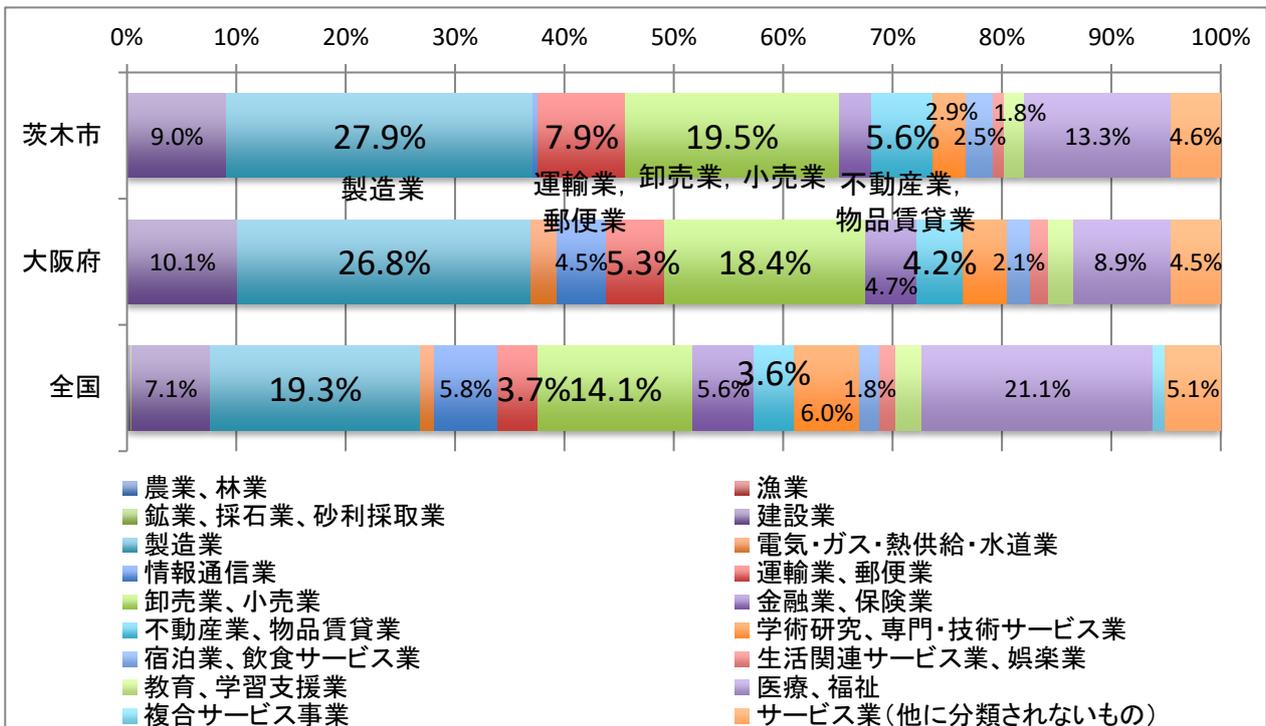


図 12-19 付加価値額（企業単位）2021

（４）商業に関する現状分析

①市全体及び中心市街地の小売業事業所数・従業員数・年間商品販売額・販売面積推移

商業統計及び経済センサスより、市全体及び中心市街地の小売業の動向をみると、市全体では、事業所数が平成 26 年から令和 3 年にかけて事業所数が増加し、従業員数、年間商品販売額も大幅に増加している。

中心市街地では、平成 26 年から平成 28 年にかけて事業所数は増加したものの、平成 28 年から令和 3 年にかけては減少し 244 事業所にまで落ち込んでいる。また、販売面積、年間商品販売額も減少している。

また、事業所数、従業員数、年間商品販売額、販売面積全てにおいて、対市シェア率は減少を続けている。

表 12-6 小売業事業所数・従業員数・年間商品販売額・販売面積の推移

		H26	H28	R3
小売業事業所数 (事業所)	市全体	1,067	1,200	1,601
	中心市街地	258	280	244
	対市シェア率	24.18%	23.33%	15.24%
小売業従業員数 (人)	市全体	10,782	12,440	19,546
	中心市街地	1,950	2,124	2,154
	対市シェア率	18.09%	17.07%	11.02%
小売業年間商品販売額 (百万円)	市全体	212,938	246,013	979,641
	中心市街地	28,430	31,305	26,668
	対市シェア率	13.35%	12.72%	2.72%
小売業販売面積 (㎡)	市全体	180,008	190,585	199,844
	中心市街地	29,041	27,799	22,564
	対市シェア率	16.13%	14.59%	11.29%

(資料：商業統計調査 (H26)、経済センサス (H28・R3))

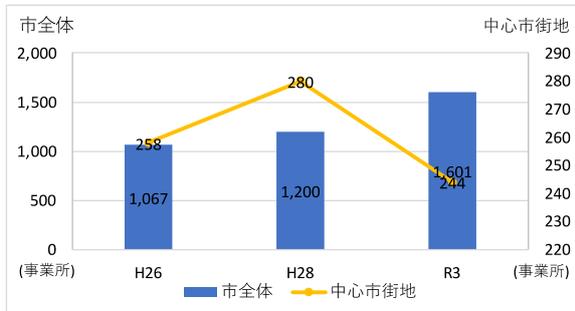


図 12-20 小売業事業所数

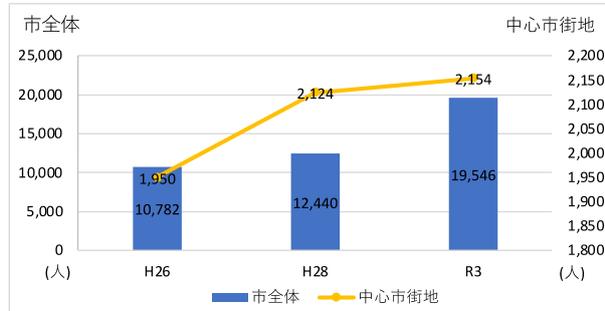


図 12-21 小売業従業員数

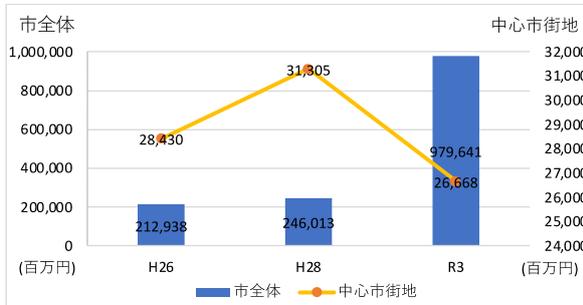


図 12-22 小売業年間商品販売額

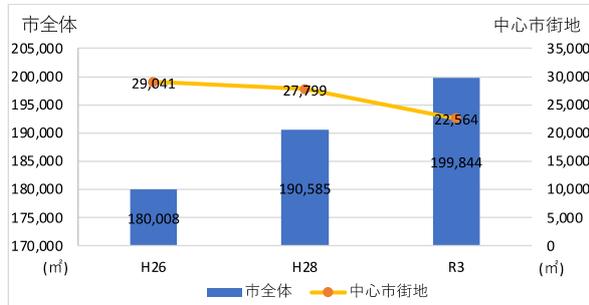


図 12-23 小売業販売面積

②中心市街地のエリア別小売業事業所数・従業員数・年間商品販売額・販売面積推移

商業統計及び経済センサスより、中心市街地のエリア別に小売業の動向をみると、令和3年で事業所数が最も多く商業集積が進んでいるのは「阪急茨木駅西エリア」となっている。

事業所数の推移をみると、「阪急茨木駅西エリア」と「JR 茨木駅西エリア」では平成26年から令和3年にかけて減少傾向にある。「JR 茨木駅東エリア」、「阪急茨木市駅東エリア」については概ね横ばいで推移している。

従業者数は「JR 茨木駅西エリア」と「阪急茨木市駅西エリア」で平成28年から令和3年にかけて減少傾向にあり、「JR 茨木駅東エリア」と「阪急茨木市駅東エリア」で増加傾向にある。

年間商品販売額については、「JR 茨木駅東エリア」で平成28年から令和3年にかけて増加しているが、それ以外のエリアでは減少している。また、販売面積は全てのエリアで平成26年から令和3年にかけて減少している。

表 12-7 エリア別小売業事業所数・従業員数・年間商品販売額・販売面積の推移

		H26	H28	R3
小売業事業所数 (事業所)	阪急茨木市駅西エリア	163	174	147
	阪急茨木市駅東エリア	24	25	26
	JR茨木駅東エリア	32	31	30
	JR茨木駅西エリア	39	50	41
小売業従業者数 (人)	阪急茨木市駅西エリア	942	1,169	940
	阪急茨木市駅東エリア	253	232	292
	JR茨木駅東エリア	360	199	535
	JR茨木駅西エリア	395	524	387
年間商品販売額 (百万円)	阪急茨木市駅西エリア	10,211	12,363	10,337
	阪急茨木市駅東エリア	5,854	6,142	5,153
	JR茨木駅東エリア	5,707	6,039	6,269
	JR茨木駅西エリア	6,657	6,761	4,909
小売業販売面積 (㎡)	阪急茨木市駅西エリア	13,487	10,658	10,029
	阪急茨木市駅東エリア	5,841	6,733	3,652
	JR茨木駅東エリア	4,464	5,894	4,755
	JR茨木駅西エリア	5,249	4,514	4,128

(資料：商業統計調査 (H26)、経済センサス (H28・R3))

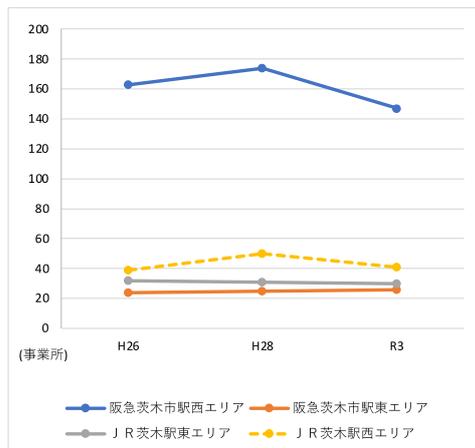


図 12-24 小売業事業所数 (エリア別)

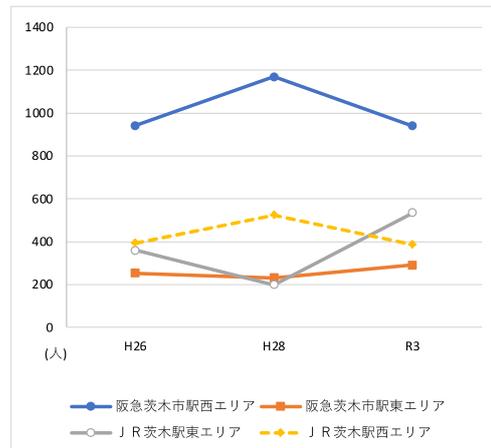


図 12-25 小売業従業者数 (エリア別)

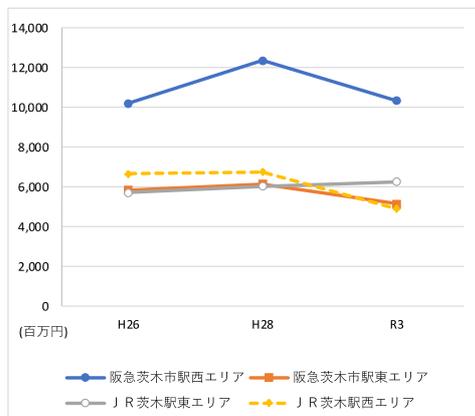


図 12-26 小売業年間商品販売額 (エリア別)

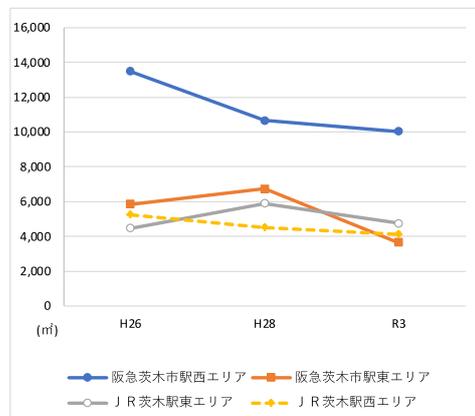


図 12-27 小売業販売面積 (エリア別)

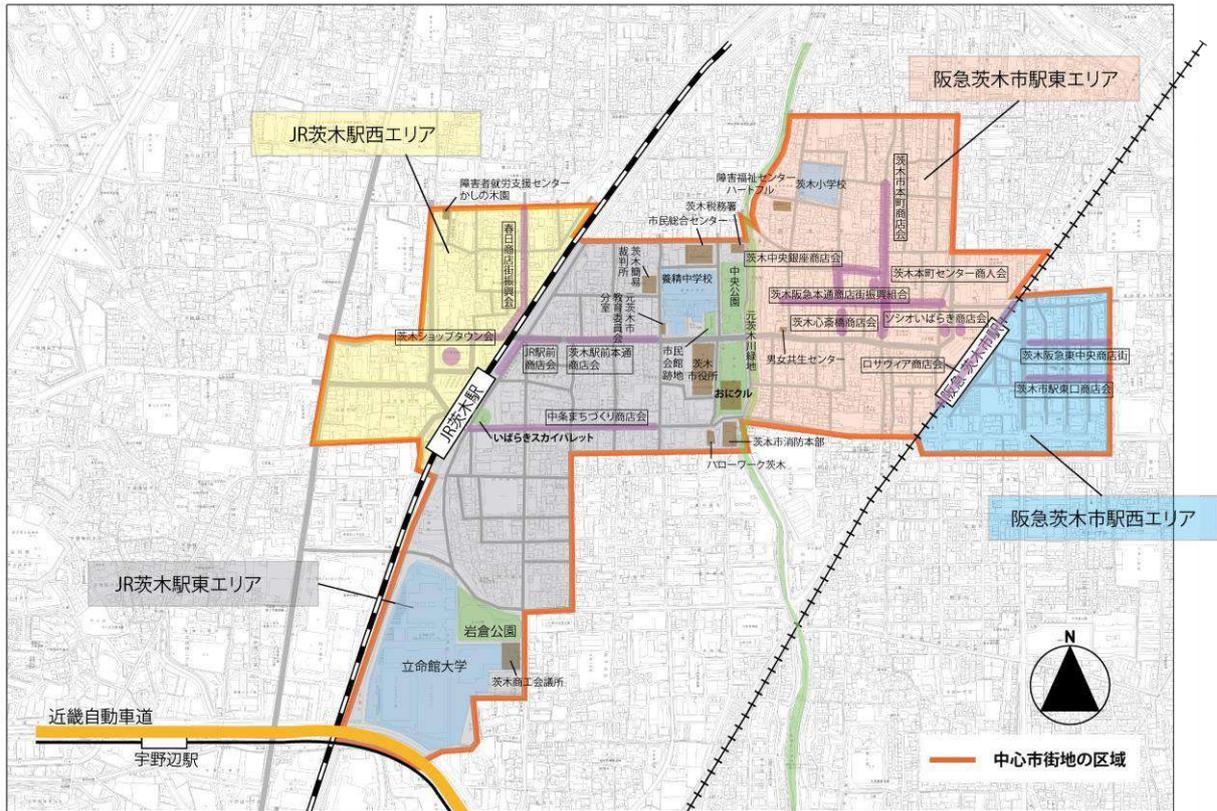


図 12-28 中心市街地内エリア図

③ 中心市街地における業種別事業所数の推移

RESAS を活用し、図 12-29 の範囲を中心市街地として設定し、エリア内の事業所数の業種別分析を行ったところ、産業構造は、「飲食店」、「その他サービス」「メディカル&ヘルスケア」「販売・卸」が多くなっている。また、2011 年から 2023 年にかけての事業所数の推移を見ると、全体では減少しており、最も構成比の多い「飲食店」や「販売・卸」も減少、増加しているのは「メディカル&ヘルスケア」となっている。



図 12-29 RESAS で設定した茨木市中心市街地の範囲

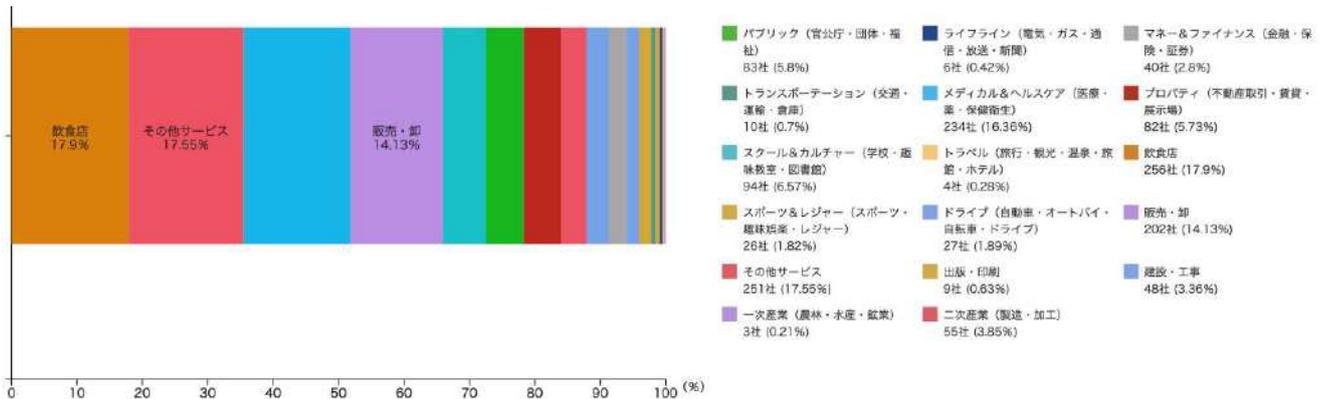


図 12-30 茨木市中心市街地の産業構造 (2023年)

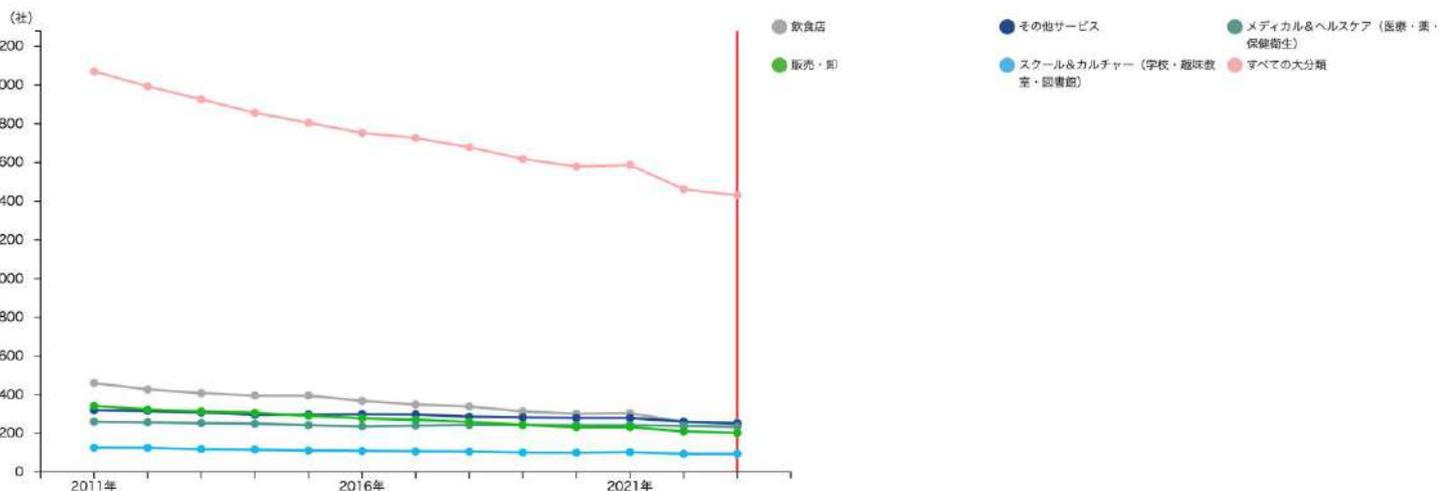


図 12-31 茨木市中心市街地の業種別事業所数推移 (2011~2023年)

④ 中心市街地における新規出店の動向

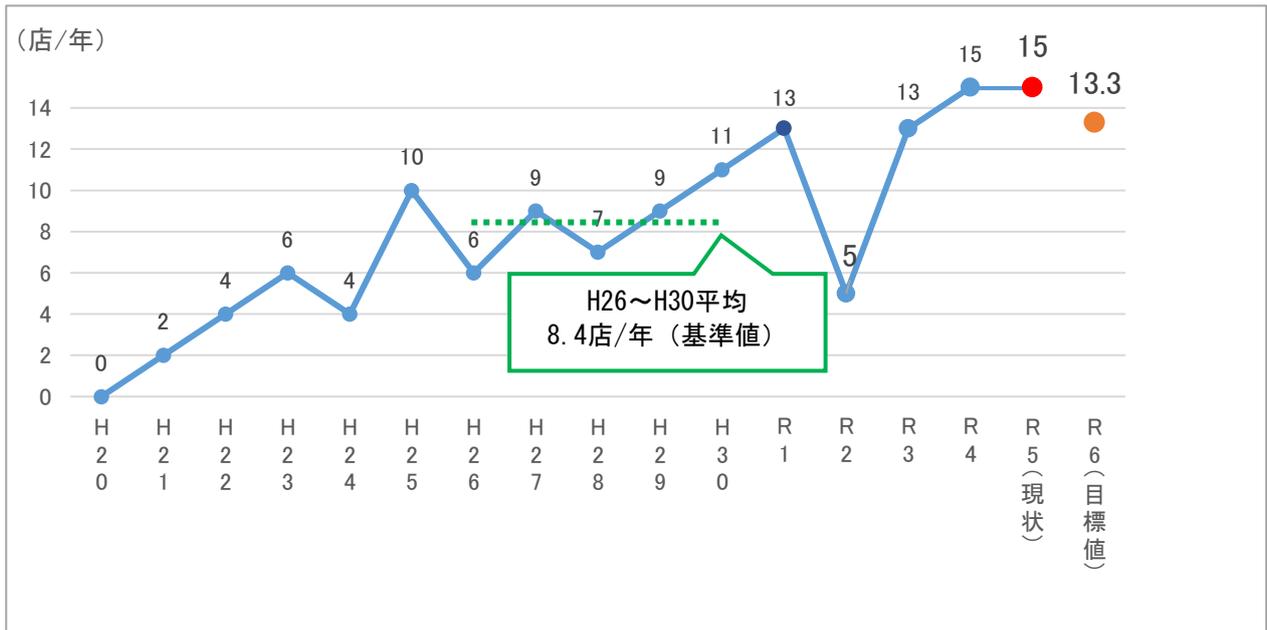


図 12-32 茨木市中心市街地における新規出店の推移

表 12-8 茨木市中心市街地における新規出店数

年	(単位)
H26~H30 平均	8.4 (基準年値)
R 1	13
R 2	5
R 3	13
R 4	15
R 5	15
R 6	13.3 (目標値) ※ただし R1~R6 平均

令和 5 年度の「茨木市創業促進事業補助金」及び「茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金」の活用件数と、「商店街にぎわい空間整備事業」及び「クリエイターズマーケット整備事業」並びに「まちづくり会社による店舗誘致事業」の中心市街地内での活用状況をみると、茨木市創業促進事業補助金での開業が 13 店舗、茨木市小売店舗改築（改装）事業補助金の活用が 2 店舗となっている。市による支援事業を予定通りに実施、計画掲載事業を活用した新規出店数は 15 店舗/年の実績となっている。

FIC ベース株式会社による、商店街にぎわい空間整備事業及びクリエイターズマーケット整備事業として、古民家を改装したカフェとハンドメイドの複合施設「omo café+c」が令和 4 年 5 月に開業、令和 6 年 1 月には、まちづくり会社の新事務所 1 階に「交流スペース」が整備され、令和 5 年 11 月のおにクル開館と合わせ、令和 4 年～5 年の直近の 2 年間に中心市街地活性化エリア全体の集客や滞在の魅力向上に貢献する拠点が複数できた。その結果、新規出店・創業環境としての魅力を維持・向上していることが伺える。

(5) 中心市街地を取り巻く商業環境に関する現況分析

中心市街地を取り巻く大規模小売店舗（茨木市内の店舗は売り場面積 1,000 m²以上、茨木市周辺の店舗は売り場面積 10,000 m²以上のものを対象とする）の立地状況をみると、市内最大のイオン茨木店（売り場面積 50,690 m²）が中心市街地に隣接している他、中心市街地周辺部に総合スーパーや食品スーパー等も多数立地している。また、近隣市にも百貨店・総合スーパーや、ホームセンターなどの専門店といった、様々な業種の大規模小売店舗があり、平成 27 年には隣接する吹田市に延床面積約 223,000 m²の大型複合商業施設「EXPOCITY」が開業するなど、中心市街地周辺には多数の大型商業施設が立地している。

表 12-9 茨木市近隣の大規模小売店舗の立地・規模（2023 年 6 月時点）

番号	店舗の名称【所在地】	開店年	売り場面積(m ²)	番号	店舗の名称【所在地】	開店年	売り場面積(m ²)
1	イオンモール茨木（イオンスタイル茨木）【茨木市】	2001 年	50,690	22	スギ薬局茨木豊川店、東京靴流通センター【茨木市】	2022 年	1,516
2	平和堂アルプラザ茨木【茨木市】	2000 年	19,521	23	関西スーパー三島丘店【茨木市】	1979 年	1,474
3	茨木ショッピングセンター	1986 年	12,000	24	郡山団地マーケット（食彩マーケット郡山）【茨木市】	1971 年	1,309
4	イオンタウン茨木太田【茨木市】	2021 年	11,500	25	阪急オアシス茨木駅前店【茨木市】	2020 年	1,230
5	茨木ショッピングプラザ【茨木市】	2000 年	7,411	26	業務スーパー茨木上穂東店【茨木市】	2024 年	1,656
6	ニトリ茨木北店【茨木市】	2004 年	6,840	27	ニトリ茨木南目垣店【茨木市】	2023 年	5,066
7	MEGA ドン・キホーテ茨木店【茨木市】	1986 年	5,917	28	高槻阪急、関西スーパー高槻店【高槻市】	1974 年	33,853
8	ガーデンモール彩都（平和堂フレンドマート彩都店）	2007 年	5,790	29	イオン高槻店【高槻市】	1994 年	24,986
9	ホームセンターコーナン茨木店【茨木市】	1985 年	3,653	30	松坂屋高槻店【高槻市】	1979 年	20,642
10	大阪府食品流通センター【茨木市】	2021 年	3,607	31	ホームセンターコーナン高槻城西店【高槻市】	2003 年	14,310
11	ホームセンターコーナン茨木安威店【茨木市】	1996 年	3,572	32	（アクトアモーレ）平和堂アルプラザ高槻【高槻市】	2004 年	13,820
12	ロピア茨木東太田店【茨木市】	2024 年	3,537	33	高槻デポマート（ホームセンターコーナン高槻上牧店）【高槻市】	2000 年	12,436
13	茨木トップセンター（平和堂真砂店）【茨木市】	1987 年	3,309	34	ホームセンターコーナン高槻上牧店【高槻市】	2000 年	14,553
14	茨木ショッパタウン【茨木市】	1970 年	2,900	35	摂津富田ビル（イオンフードスタイル摂津富田店）【摂津市】	1980 年	10,977
15	ジョーシン茨木店【茨木市】	2019 年	2,854	36	カインズ高槻店【高槻市】	2008 年	10,919
16	ロサヴィアいばらき【茨木市】	1991 年	2,440	37	テックランド高槻大塚本店、ニトリ高槻店【高槻市】	2004 年	10,800
17	イングリパラキ（麒麟堂沢良宜店）【茨木市】	1997 年	2,231	38	ららぽーと EXPOCITY【吹田市】	2015 年	61,000
18	ラ・ムー彩都店【茨木市】	2019 年	2,044	39	吹田さんくす（イオン吹田店）【吹田市】	1979 年	20,600
19	コープ茨木白川【茨木市】	—	1,644	40	イズミヤ千里丘店【吹田市】	1976 年	15,488
20	ダイエー上穂積店・イオンフードスタイル【茨木市】	1996 年	1,643	41	トナリエ南千里アネックス【吹田市】	1987 年	14,690
21	ピエラ茨木新中条（デリーカーナートイズミヤ新中条店）【茨木市】	2019 年	1,636	42	イオン北千里店【吹田市】	1994 年	14,000

※茨木市内の店舗は売り場面積 1,000 m²以上、茨木市周辺の店舗は売り場面積 10,000 m²以上の店舗を掲載

（資料：全国大型小売店総覧、2023 年版）

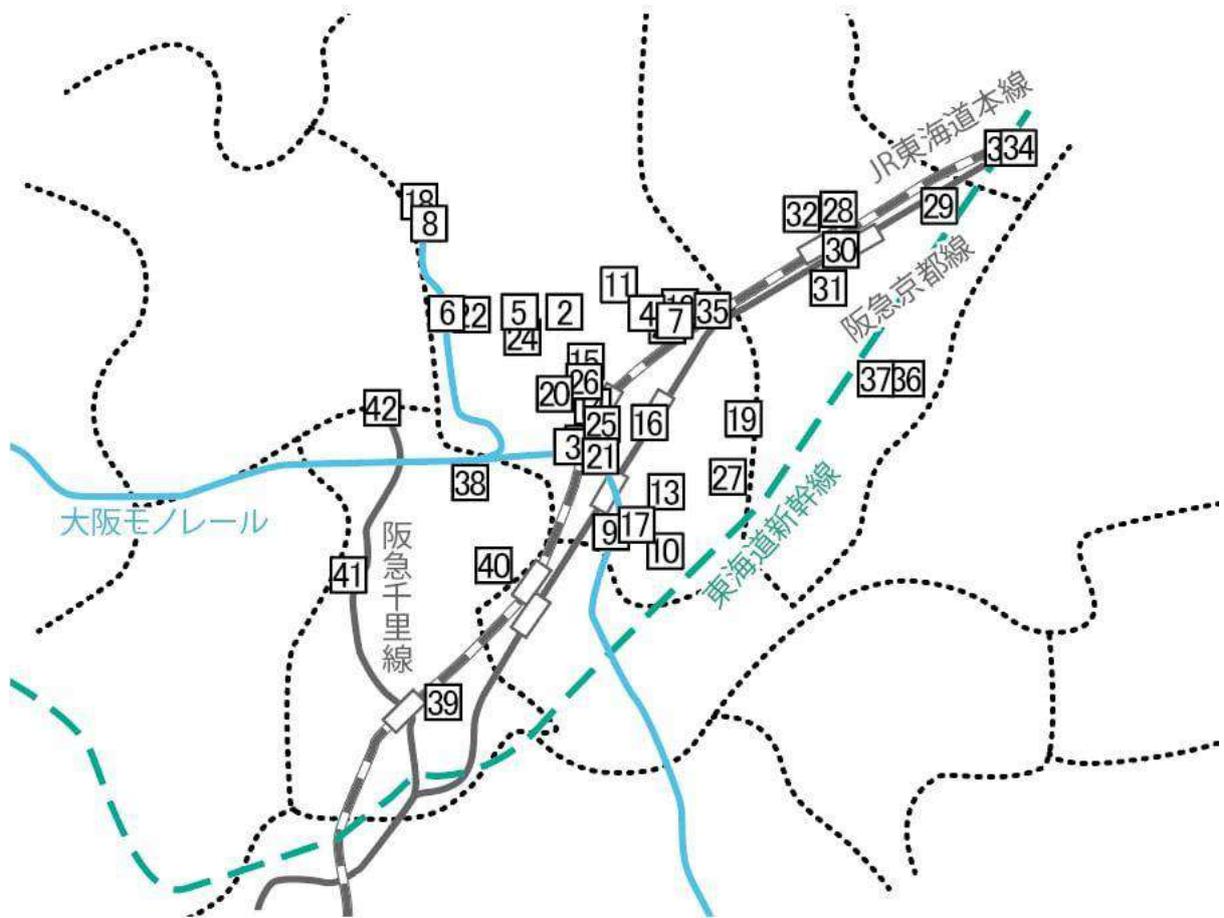


図 12-33 中心市街地を取り巻く大規模小売店舗の立地状況

(6) 交通量に関する現況分析

① 鉄道

市内では、阪急電鉄(株)、西日本旅客鉄道(株)および大阪高速鉄道(株)の3社の鉄道路線が運行しており、JR東海道線(茨木駅・JR総持寺駅)、阪急京都線(茨木市駅、南茨木駅、総持寺駅)、大阪モノレール(宇野辺駅、南茨木駅、沢良宜駅、彩都西駅、豊川駅、阪大病院前駅)が整備され、大阪市内や京都市内、大阪国際空港(伊丹空港)等を結んでいる。

市内11駅の中で、乗降客数の統計数値が最も多いのは阪急茨木市駅であるが、乗客数だけが公開されているJR茨木駅も相当程度の乗降客数が見込まれる。

また、市内各駅の年間利用者数の推移をみると、全体的に新型コロナウイルスの影響を大きく受けていることがわかる。少しずつ以前の乗降客数に戻ってきているが、オンラインでの授業やテレワークなど暮らし方の変化による影響が今後も乗降客数に響く可能性も考えられる。

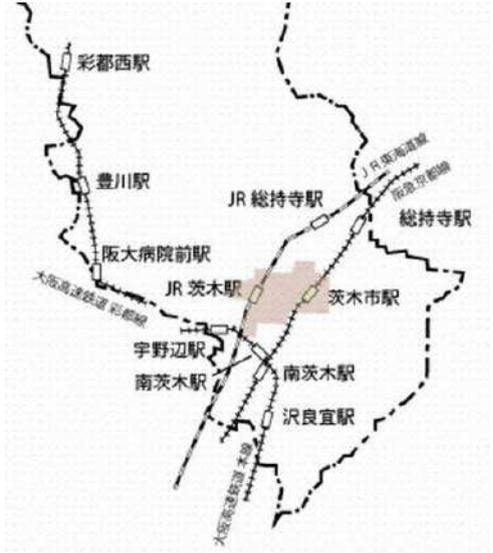


図 12-34 本市内の鉄道路線図

表 12-10 茨木市内に位置する鉄道各駅の乗降者数(単位:千人)

区分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
JR	茨木駅	乗車	17,873	17,657	13,180	13,819	15,177
		降車	—	—	—	—	—
	JR総持寺駅	乗車	1,662	2,761	2,317	2,781	3,220
		降車	—	—	—	—	—
阪急	茨木市駅	乗車	13,058	12,687	9,135	9,616	10,745
		降車	13,628	13,454	9,741	10,334	11,683
	総持寺駅	乗車	3,746	2,973	2,338	2,494	2,711
		降車	3,861	3,082	2,462	2,629	2,883
	南茨木駅	乗車	8,815	8,693	6,634	6,710	7,669
		降車	9,183	9,117	6,865	7,051	8,222
モノレール	宇野辺駅	乗車	1,414	1,396	1,109	1,178	1,309
		降車	1,354	1,345	1,081	1,156	1,275
	南茨木駅	乗車	5,683	5,650	4,255	4,545	5,192
		降車	5,528	5,546	4,179	4,474	5,107
	沢良宜駅	乗車	678	690	615	660	728
		降車	641	657	586	633	704
	阪大病院前駅	乗車	1,418	1,490	1,183	1,303	1,431
		降車	1,458	1,521	1,201	1,308	1,452
	豊川駅	乗車	565	552	454	475	517
		降車	552	533	438	459	500
	彩都西駅	乗車	1,861	1,976	1,553	1,594	1,789
		降車	1,888	1,994	1,575	1,625	1,834

(資料:茨木市統計書、令和5年度)

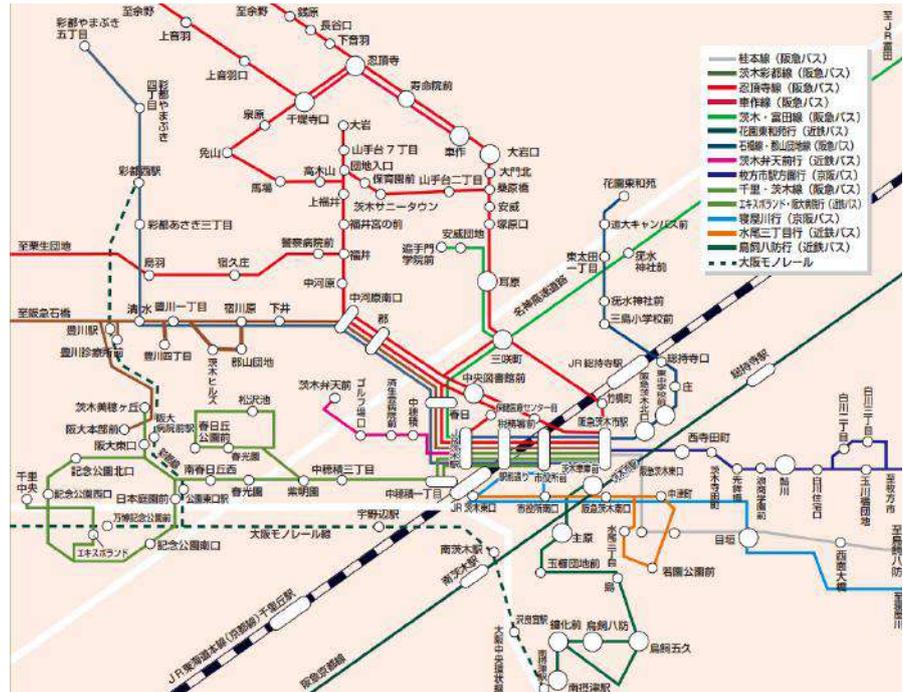
※JR各駅は、降車の集計は行っていない。

※JR総持寺駅は、平成30年3月17日に開業

②路線バス

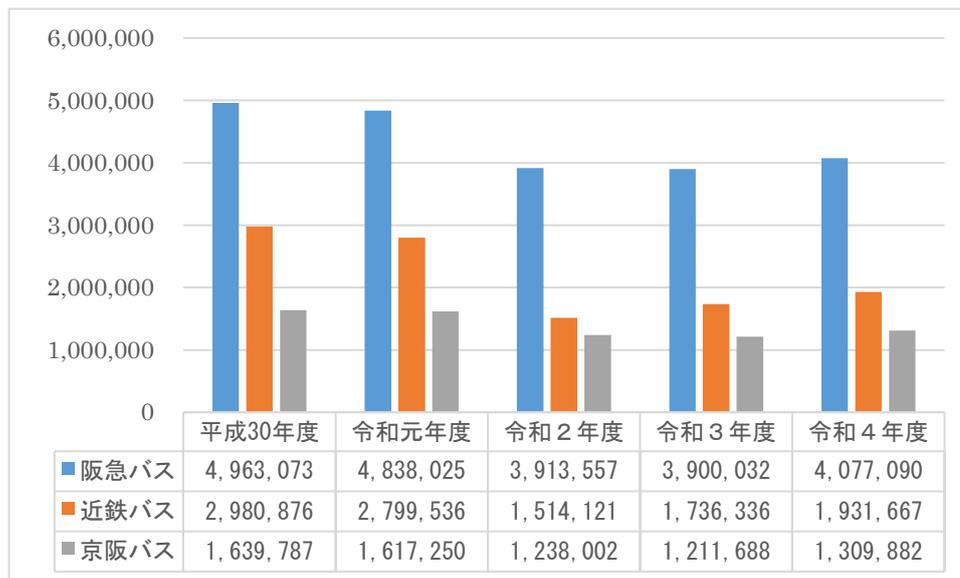
市内の路線バスは阪急バス、近鉄バス、京阪バスの3社が運行しており、阪急バスが中心地域と北部地域、近鉄バスが中心地域と南部地域、京阪バスが市内中心部と南東部との間の地域を主に運行している。

また、各社の路線バス利用者数の推移は、阪急バス及び京阪バスは横ばい傾向であるが、近鉄バスは令和4年で増加傾向を示している。



(資料：茨木観光協会 ひとめぐりマップより抜粋)

図 12-35 市内の路線バス運行図



(資料：茨木市統計書、令和5年度)

※市内のバス会社毎の乗車数

図 12-36 茨木市内路線バス利用者数の推移

③平日昼間の歩行者通行量

中心市街地における「平日昼間の歩行者通行量」に関する調査を、平成29年から毎年11月に中心市街地内の10地点において午前7時から午後7時までの12時間で計測を行っている。

表 12-11 歩行者通行量調査方法

調査方法	歩行者・自転車通行者、毎年 11 月の平日に中心市街地内 10 地点において午前 7 時から午後 7 時までの 12 時間計測
調査月	令和 5 年 11 月
調査主体	茨木市
調査対象	中心市街地内 10 地点 (A①JR 茨木駅商店街エスカレーター、A②JR 茨木駅商店街居酒屋前、B①JR 茨木駅阪急オアシス前エスカレーター、B②JR 茨木駅阪急オアシス前、C JR 茨木駅立命館方面エスカレーター、D 市民会館跡地、E①本通り商店街 (阪急茨木市駅方面)、E②本通り商店街 (城跡方面)、F 阪急茨木市駅商店街側、G 阪急茨木市駅市役所側)

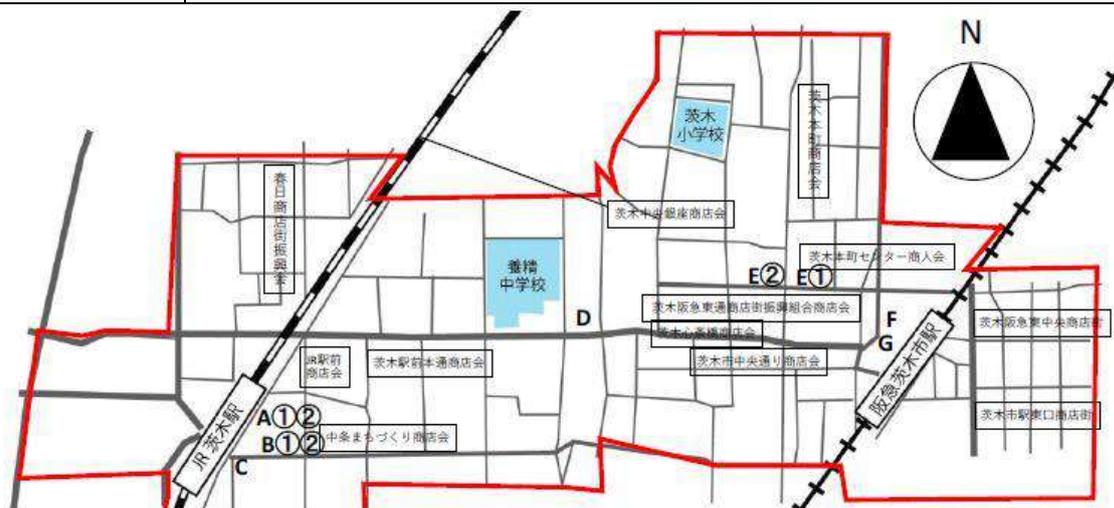


図 12-37 歩行者通行量調査地点図

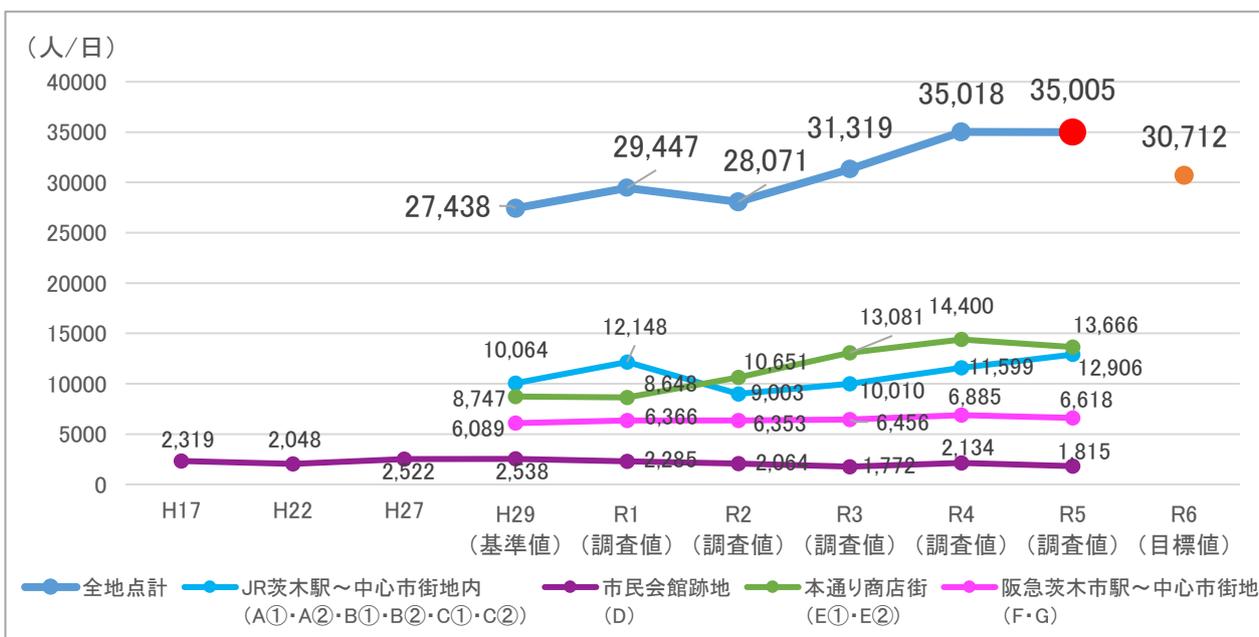


図 12-38 中心市街地エリアの平日昼間の歩行者通行量の推移

表 12-12 中心市街地エリアの平日昼間の歩行者通行量（9時～17時までの通行量）

		H29 (基準値)	H30 (調査値)	R1 (調査値)	R2 (調査値)	R3 (調査値)	R4 (調査値)	R5 (調査値)
A①	JR 茨木駅商店街側 エスカレーター	2,316	1,733	1,833	1,904	1,870	2,198	2,150
A②	JR 茨木駅商店街側 居酒屋前	261	168	247	228	188	195	174
B①	JR 茨木駅阪急オア シス前エスカレーター	2,039	1,785	2,758	2,375	2,362	2,446	2,794
B②	JR 茨木駅阪急オア シス前	963	658	1,490	1,000	849	1,043	1,258
C①②	JR 茨木駅立命館方 面エスカレーター	4,485	748	5,820	3,496	4,741	5,717	6,530
D	市民会館跡地	2,538	3,315	2,285	2,064	1,772	2,134	1,815
E①	本通り商店街 (阪急茨木市駅方面)	7,573	7,888	8,129	8,609	9,179	8,624	7,985
E②	本通り商店街 (城郭方面)	1,174	2,504	519	2,042	3,902	5,776	5,681
F	阪急茨木市駅 商店街側	4,109	4,445	3,867	3,557	3,616	3,877	3,644
G	阪急茨木市駅 市役所側	1,980	2,774	2,499	2,796	2,840	3,008	2,974

「平日昼間の歩行者通行量」では、調査開始時の平成 29 年度の 27,438 人/日を基準年値とし、令和 6 年度の 30,712 人/日を目標値としている。令和 5 年度では、目標値を上回り 35,005 人/日と、令和 4 年度と比較して概ね横ばいの結果となった。

各調査地点の増減をみると、JR 茨木駅の立命館大学方面への人流 3 地点以外は微減傾向にあるが、数値としては令和 4 年度からの高い水準を維持している状況であり、エリア内での人口増加の影響が、全体として継続していることが推察される。

JR 茨木駅周辺での「平日昼間の歩行者通行量」の増加については、新型コロナウイルスが 5 類感染症へ移行し、各種行動制限が本格的に緩和されたことで大学を中心に通勤・通学の鉄道利用者が戻り、通行量も増加したものと考えられる。

特に減少率が高かった調査地点は、中心市街地の中央に位置する市民会館跡地地点で前年度比-15%となった。この要因として、「おにクル」会館直前に本調査が行われたため、施設整備に伴い各種施設が閉鎖され、利用できなかったことによる影響があったものと推察される。

しかし、調査実施後の令和 5 年 11 月 26 日に開館した「おにクル」では、会館日に想定を大きく上回る 15,000 人が来館、開館から 1 か月で累計来館者数が 19 万人を超える等、高い集客効果を誇っており、今後は施設整備による波及効果をエリア内の回遊性の向上に繋げていくことなどを目指している。今後、「おにクル」の「平日昼間の歩行者通行量」への波及効果を図るために、調査地点を見直す。

④ 駐車場・駐輪場

中心市街地における主な市営駐車場、駐輪場の整備状況をみると、自動車約 720 台、バイク約 2,000 台、自転車約 10,000 台の駐車・駐輪スペースが整備されている。



図 12-39 中心市街地の市営駐車場・駐輪場位置及び収容可能台数

表 12-13 茨木市駐車場収容台数

令和6年3月1日現在

駅	No.	駐車場名	自動車	バイク	自転車	計
JR茨木駅周辺	1	JR 駅前ビル駐車場	52	0	0	52
	2	西駅前町自転車駐車場	0	550	1,300	1,850
	3	松ヶ本町自転車駐車場	0	0	600	600
	4	JR 茨木西口自転車駐車場	0	293	230	523
	5	春日自転車駐車場	0	0	920	920
	6	JR 茨木北駐車場	28	0	450	478
	7	JR 茨木駅東口自転車駐車場	0	0	2,405	2,405
	8	JR 茨木南自転車駐車場	0	100	0	100
	9	JR 駅前北自転車駐車場	0	0	84	84
	10	JR 駅前広場自転車駐車場	0	16	90	106
		計	80	959	6,079	7,118
阪急南茨木駅周辺	11	南茨木駅前(第1)自転車駐車場	0	30	700	730
		南茨木駅前(第2)自転車駐車場	0	0	1,200	1,200
		南茨木駅前(第3)自転車駐車場	0	30	300	330
		南茨木駅前(第4)自転車駐車場	0	30	440	470
		南茨木駅前(第5)自転車駐車場	0	0	210	210
		計	0	90	2,850	2,940
	12	南茨木駅北自転車駐車場(1.2階)	0	49	640	689
南茨木駅北自転車駐車場(3階)		0	0	250	250	
	計	0	49	890	939	
		計	0	139	3,740	3,879
モノレール各駅	13	モノレール沢良宜駅自転車駐車場	0	105	480	585
	14	モノレール宇野辺駅(第1)自転車駐車場	0	55	480	535
		モノレール宇野辺駅(第2)自転車駐車場	0	0	215	215
		計	0	55	695	750
	15	モノレール阪大病院前駅自転車駐車場	0	50	100	150
	16	モノレール豊川駅自転車駐車場	0	35	248	283
17	モノレール彩都西駅自転車駐車場	0	78	410	488	
	計	0	323	1,933	2,256	
阪急茨木駅周辺	18	阪急茨木西口駐車場	1	900	151	1,052
		別院町自転車駐車場(西棟)	0	0	1,090	1,090
		別院町自転車駐車場(東棟)	0	0	614	614
		計	0	0	1,704	1,704
	20	阪急茨木北口駐車場	0	0	300	300
	21	阪急茨木東口駐車場	21	0	0	21
双葉町駐車場		0	170	1,811	1,981	
22	(新)双葉町駐車場	0	0	779	779	
	計	0	170	2,590	2,760	
	計	22	1,070	4,745	5,837	
寺 阪急 駅 総持 周辺 持	23	総持寺自転車駐車場	0	210	2,390	2,600
	24	総持寺駅南駐車場	40	50	600	690
	計	40	260	2,990	3,290	
持 JR 寺 総 駅 持	25	JR総持寺駅南自転車駐車場	0	52	685	737
	26	JR総持寺駅北自転車駐車場	0	0	85	85
	計	0	52	770	822	
市内	27	中央公園駐車場	308	0	0	308
	28	市役所駐車場	102	0	0	102
	計	410	0	0	410	
		合 計	552	2,803	20,257	23,612

(資料：茨木市交通政策課)